

人性的证明

中国日语教学研究会推荐

〔日本〕森村诚一 著 马兰英 注释 胡振平 审校

日文版

H36

译林出版社



日本现代文学
精品注释丛书

人性的证明

日文版

〔日本〕森村诚一 著 马兰英 注释 胡振平 审校 译林出版社



江苏工业学院图书馆
藏书章

图书在版编目(CIP)数据

人性的证明／(日)森村诚一著；马兰英注释．-南京：译林出版社，2004.1

(日本现代文学精品注释丛书)

书名原文：人間の証明

ISBN 7-80657-563-4

I. 人... II. ①森... ②马... III. 长篇小说-日本-现代-日文 IV. I313.45

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2003) 第 031969 号

Copyright © 2000 by 森村誠一.

Japanese reprint rights in China arranged with WATANABE Harumi through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

登记号 图字：10-2002-002号

书 名 人性的证明
作 者 [日本]森村诚一
注 释 马兰英
审 校 胡振平
责任编辑 张远帆
原文出版 角川書店, 2000
出版发行 译林出版社
电子信箱 yilin@yilin.com
网 址 <http://www.yilin.com>
地 址 南京湖南路 47 号(邮编 210009)
集团地址 江苏出版集团(南京中央路 165 号 210009)
集团网址 凤凰出版传媒网 <http://www.ppm.cn>
印 刷 南京通达彩印有限公司
开 本 850×1168 毫米 1/32
印 张 11.625
插 页 2
版 次 2004 年 1 月第 1 版 2004 年 1 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 7-80657-563-4/I·430
定 价 18.00 元

译林版图书若有印装错误可向承印厂调换

前言

进入新世纪后，始于上世纪八十年代的『日语热』并没有降温，随着中日两国交流的增多，更多的人投入到学习日语了解日本的行列中来。国内也引进和编写了相当数量的日语教科书、参考书和工具书，这都是我们这些从事日语教学多年的人乐于看到的。不过，同时我们也感到，相对于品种繁多的语法指导、单词手册之类，国内的日语阅读材料是明显比较薄弱的一环。有许多学生包括身边一些自学日语的朋友发出了『无书可读』的感慨。我们一直在思考怎样的日语读本才是最实用的，于是几经酝酿，精心编注，终于可以把眼前这套书奉献给广大读者。

这套由译林出版社出版的『日本现代文学精品注释丛书』，与以往的一些泛读教材和文学选读相比，最大的特点在于其完整性。过去我们编阅读材料，常常因为篇幅的限制和教学的需要，对一些长篇的作品只能节选，对一些难度大的作品要作部分改写。这样做，对于读者来说自然有难窥全貌之憾，于编者亦有割爱之痛。现在这套丛书全部是向日本购买版权，不作任何删改的原文出版，完完全全保留了作品的原貌。据我所知，如此成规模地引进日语原著在中国加入世界版权组织后还是首次，不能不说是日语学习者的一件幸事。

1 我们把这套书定名为『日本现代文学精品注释丛书』，是为了体现在编注中的几个基本出发点。首先，选取的都是现代作品，这些作品可以体现现代日语的面貌，提供给读者鲜活的语言。入选的作家也是以语言规范平实见长，是学习者容易模仿并值得模仿的对象。同时，所选作品均在日本现当代文

学史中有一定的地位，在国内也已经有了不小的知名度，是公认的非常好读的『文学精品』。题材虽不尽相同，但无论是散文游记、爱情小说还是悬疑小说，都能引人入胜。当然，这套书毕竟不同于一般的文学作品欣赏，主要是献给日语学习者的读物，它的实用性更多体现在『注释』上，每本书中对需要注意的生僻单词、语法现象和文化常识都做了较为精当的注释。对于日语程度较低的读者，可以扫除他们阅读中的障碍；对于有一定基础的读者，恐怕也有助于日语知识的巩固与提高。除了方便自学之外，这套书可以供老师们选取一些篇章作为泛读课的教材；考虑到入选作品多有中文译本，在教授翻译课程的时候也可作为参考书使用。

这套丛书是一个新的尝试，我们动了不少脑筋，花了不少力气，也一定会存在不少问题。希望大家能欢迎这个尝试，仔细阅读这些书，提出批评意见，帮助我们把这套书出好，并且继续下去。

中国日语教学研究会会长

胡振平

二〇〇三年六月

エトランジェの死^①

1

その男が乗って来たとき、だれも注意を向けなかった。世界各国から多種多様の人間が集まってくるその場所では、異邦人の彼も、さほど目立つ存在ではなかった。

黒人ではあるが、肌の色は、ややうすい。褐色に近い肌をしている。髪は黒く、あまりちぢれていない。顔の造作もどちらかといえば東洋人に近い感じである。黒人にしては、背は低いほうだ。年齢は二十代か、ひきしまった精悍な体軀^{ていこう}をしているが、この季節にはまだ早いマキシがかったバーバリのコートで体形のほとんどを隠している。

どこか具合いでも悪いのか、彼はひどく重そうな足取りで、エレベーターを待っていた一群の人々の最後尾から、搬機^{はんき}に乗り込んで来た。

このエレベーターは、建物の最上階にある『スカイダイニング』への『急行』である。四十二階、百五十メートルの高さをノンストップの場合二十八秒で上ってしまう。二十階まで直行し、それから上は客のリクエストによって停める。

「ご利用階数をお知らせ願います」

⑦「コール・ユア・フロア・プリーズ」

矢絨^{やじゅう}の和服を着た美しいエレベーターガールが日英両国語で客に呼びかけた。搬機^{はんき}は音もなく垂直の空間を移動する。搬機の床には毛足の長い絨毯^{じゅうたん}が敷きつめられ、それがいっそうに周囲からの柔らかな隔絶感を促す。

① エトランジェ(法 étranger)/异乡人。② どちらかといえば/(要说是东方人还是西方人)说起来……。③ ~にしては就……而论,按……来说。(惯用型,接在体言或用言终止形后,表示评价事物的着眼点。)④ バーバリのコート/伯里长风衣。(バーバリ [Burberry]/伯里是英国厂家名,用作商标。)⑤ スカイダイニング (sky-dining)/高空晚餐。⑥ ノンストップ(non-stop)中途不停,直达。⑦ コール・ユア・フロア・プリーズ (Call your floor please)/请将您要去的楼层告诉我。

すべてスカイダイニングへおもむく客ばかりと見えて、ケージはノンストップで上っていく。定員の約七割の客には、外国人の姿のほうが目立つ。みな無言で移動するインジケーターサインを見守っている。いずれも金と暇に恵まれて、今宵の豪華な食事を楽しみに来た人々のように見えた。ただ一人の例外を除いては。

エレベーターは、ほとんど振動を客に伝えることなく、最上階に着いた。開いたケージのドアの前で、タキシードと蝶タイに身をかためた食堂長が恭しく頭を下げた。

「お待ちせいたしました。スカイダイニングでございます」

エレベーターガールも優雅に告げて、客を送り出した。客たちは、豪華なダイニングルームのたたずまいに、それぞれポーズをつけてケージから降り立った。

この場所で食事をできる人間は、選ばれた者だけである。彼らが一食に費す費用で、百人の餓えた人間を養えるだろう。だがそんなことを考える者はいなかった。ここで要求されることは、その食事に相応する服装とマナーと、そして代金を賄える資力である。客が空腹であるかどうかは問題ではなかった。

④ 食事が豪華であればあるほど、食物のもつ本来の目的から逸脱③してくる。だが、人々はその矛盾にほとんど気がつかない。

ケージは、空になった。いや一人だけ残っている者があつた。ケージの壁に寄りかかったまま下りて行くとしない。最後に乗り込んだバーバリコートの黒人である。目を閉じていた。

「お客様」

エレベーターガールが声をかけても、いつかな動かない。立ったまま眠ってしまったのかともいかけたエレベーターガールが、どうもそうではない様子に気がついた。いままでは他の客のかげに隠れてわからなかったが、様子がおかしい。褐色の肌のために、よく顔色を読み取れないが、表情というものがまったくない。ポーカーフエースの無表情とはちがって、死相が貼りつい

① インジケーターサイン (indicator sign) 楼层指示器。 ② -に恵まれて/在……方面得天独厚。(接在名词后) ③ 客たちは、豪華なダイニングルームのたたずまいに、それぞれポーズをつけてケージから降り立った/乗客们看到餐厅的豪华景象，个个都抖擞起了精神，从电梯内鱼贯而出。 ④ 食事が豪華であればあるほど、食物の持つ本来の目的から逸脱して/飲食越是豪华，就越脱离食物所具有的本来目的。

たようなのだ。

このときになって彼女は、その男がひどく場ちがいなのを悟った。羽織ったパーバリのコートは、垢で黒光りしている。袖や裾は、すり切れて、繊維の先端がけば立っている。所々に泥のようなものがかびりついている。刈り上げた頭髮も埃まみれで、かさかさ乾いた皮膚に濃い不精ひげが目立つ。コートの下胸元を庇うように手で押さえている。

とても優雅な夕食を楽しみに来た格好ではなかった。

——きつとまちがえて、乗り込んでしまったんだわ——

種々雑多の人間の集まる所だから、こんな人間がまぎれこんでも不思議はない。この男は自分のまちがいに気がついたので、下へ戻ろうとしているのだらう。

エレベーターガールは、おもいなおして、食堂前のロビーで待っていた客に「下へまいります」と呼びかけようとした。

パーバリコートの男が動いたのは、そのときである。男は背をケージの壁にもたせたまま、ずるずると膝を折った。尻もちをつくような形でケージの床に尻を落とした男は、グラリと前かがみに上体を折った。

いきなり自分の足元へ倒れかかってこられたので、エレベーターガールは小さな悲鳴をあげて飛び退いた。しかし、すぐに自分の職務に気がついて、「お客様、いかがなさいました」と声をかけてたすけおこそうとした。この時点では彼女も、男が軽い貧血でもおこしたぐらいに考えていた。わずか二十八秒で百五十メートルも上ってしまうエレベーターでは、時々こういう症状を現わす客がいたからである。

だが、彼女は言葉を最後まで言えなかった。男をたすけおこそうとしたはずみに、いままでコートによって隠されていた胸元が目に入った。一瞬、赤い色彩が彼女の目の中で炸裂したように感じた。同時にこれまで男が立っていた足元のページュ色の絨毯が、赤黒く染色されているのに

① まみれ汚、沾汚。(接尾词,接在名词后,表示脏东西沾满物体的表面。)

② 不精ひげ 懶得刮任其长长的胡子, 邋邋胡子。 ③ ~う (よう) としている/正要……, 正打算…… (惯用型, 接在动词未然形后, 表示正要某个动作或某个动作正要发生。) ④ 尻もちをつく/屁股着地摔倒, 摔了个屁股墩儿。(惯用句) ⑤ ~はずみに/(刚……的)刹那。

気がついた。

エレベーター・ガールは、今度こそ抑制をかけない本物の悲鳴をあげて、機内から飛び出した。ロビーにいた客が仰天した。食堂長やウェイターが飛んで来た。男はすでに死んでいた。ナイフが顎下（柄の根元）まで胸に突き立てられていた。突き立ったナイフが蓋の役めをしたために、あまり血も流れていない。男がここまでの行動能力を保存したのも、ナイフを引き抜かなかつたからかもしれない。

大騒ぎになった。直ちに警察へ通報が為された。

千代田区平河町の東京ロイヤルホテルのスカイダイニングルームに外国人刺殺体が転がりこんだという急訴を――〇番經由でうけた警視庁通信司令室は、直ちに現場付近を警邏中のバトカーと所轄の麹町署に連絡した。

麹町署とロイヤルホテルは目と鼻の先なので、所轄署員は、バトカーとほとんど同時に現場へ着いた。現場は同ホテルが最大の売り物にしている四十二階にあるスカイダイニングである。時間もちょうど午後九時を少しまわったところで、外来客が多くなる時間帯であった。

地上最高（高度、値段、料理において）をホテルが自負する超デラックスなダイニングルームの、最も優雅な時間帯に、血まみれの死体が転がりこんだのであるから、ホテル側の動転は、まことに救い難いものがあった。

まず、客が蟻の巣をこわされたような騒ぎになった。血のしたたるようなステッキに舌つづみを打っていた客は、ナイフを胸に突き立てられ、血まみれになった死体の闊入の報らせに、せっかく胃に入れた美肉を危うく吐きそうになった。実際に吐いた客もいた。

婦人客が、先を争って逃げ出した。だが逃げ出した先のエレベーターホールを、凄惨な死体が塞いでいたのである。子供が泣きだした。つられて泣きだした親もいる。優雅な食事どころでは

① ロイヤルホテル (Royal Hotel)/皇家飯店。② 目と鼻の先近在咫尺、非常近。(慣用句) ③ ありの巣をこわされたような像 踩了蚂蚁窝一样。(慣用句) ④ 舌つづみを打つ(飲食美味時) 吧嗒嘴, 咂嘴。(慣用句) ⑤ 危うく~そうになった 差点就要……, 险些要……(慣用型, “危うく”是副词, “险些”、“差点”的意思; “そうに”是样态助动词“そうだ”的连用形, “そうになった”表示“眼看就要”、“差点就要”、“险些要”的意思。) ⑥ ~どころではない 哪谈得上……, 哪能……(慣用型, 接在名词或动词连体形后, 强调没有做某事的余地。)

なくなった。

客の混乱をよそに、駆けつけた警察陣は、冷徹に検証を進めていた。だがオーソドックスな現場検証とも、おもむきを異にしていた。

被害者を運んで来たケージのエレベーターガールや乗り合わせた客の証言によって、被害者がべつの場所からやって来たことは、確かである。創傷の部位や、衣服の上から直接突き刺している点から、自殺とは、考えられない。また傷の状態から判断して、ケージ内部で刺されたものでもない。すると、被害者はどこかべつの場所で胸に凶器を送りこまれたのだ。

——その場所は、どこか？——

捜査員は、検死の係官を残して、犯行現場を探し求めながら被害者の足どりを溯った。

被害者の傷の程度から見て、あまり遠方からやって来たとはおもわれない。犯行現場はきつとこの近くにある。——捜査陣は、そう信じていた。

だが、捜査陣の目算は外れた。捜査員の丹念な搜索にもかかわらず、付近に犯行現場を見つけれなかった。捜査をはじめににあたつて捜査陣は犯行現場をホテルの内部とにらんだ。

ロイヤルホテルは、四十二階、客室総数二千五百を誇る超巨大ホテルである。収容客数四千二百名の他に、付設食堂や大中小七十の宴会場へ集まつて来る外来客が多い。

これらの客の中に犯人が紛れこんでいたとすれば、その割り出しには、かなりの困難が予想される。しかし犯行の現場がホテルの敷地内であれば、捜査範囲が限定される。犯行現場を突き止められれば、そこから犯人を手繰る糸口をつかめるかもしれない。

ホテル宿泊客の協力を取り付けて、二千五百の全室、七十の宴会場、各種食堂、バー、地下のアーケード街、建物をめぐる一万五千坪の庭園、ガーデンハウス、東屋、駐車場に至るまで、隅々なく搜索された。

① ~をよそに/不顾……（慣用型，接在体言后，表示无视别人的建议、想法，我行我素。） ② オーソドックス(orthodox)认真地。 ③ ~から見て/从……来看。（惯用型，接在体言后，表示从……立场、观点来看。） ④ ~にもかかわらず/尽管，虽然……但是……（惯用型，接在体言或用言连体形后，表示逆接关系。） ⑤ 地下のアーケード(arcade)街地下商店街。 ⑥ ~に至るまで/甚至……，以至于……（惯用型，接在体言后，表示事物达到的极限。）

しかしながら、犯行現場とおぼしき場所は発見されなかったのである。内部に痕跡^{あと}がなければ、当然外部から来たと考えなければならない。ロイヤルホテルは地理的に東京の中心部に位置している。文字どおりの「都心」である。被害者は、いったい大東京のどこから瀕死^{瀕死}の重傷を負った身体をここまで引きずって来たのか？

この捜索の間に、被害者の解剖の結果が出た。それによると推定犯行時間は、死体となって発見された時点より三十分ないし一時間遡^{さかのぼ}る、すなわち九月十七日午後八時から八時三十分の間、凶器は右前胸部に刺しこまれ、その先端は肺臓を傷つけ、肺動脈に達している。傷口を凶器が蓋した形になっていたために、筋肉が凶器に巻きついてます開口部を閉塞^{へいさく}し、胸腔内に多量の血液が貯溜^{ちりりゅう}してこれが死因となったとみられた。

② これだけの傷を負いながら、屋上レストランまでやって来た行動能力の残されていたことに、執刀した医者は驚嘆^{きょうたん}した。文献には心臓に負傷して二百―五百メートル歩行したという事例や、数日―数週間生存した特例が報告されているが、現実にはきわめて稀^{まれ}である。

心臓よりも、太い動脈を切った場合のほうが、受傷後の行動能力が短いことが多いが、それも個々の傷の具合によって異なる。

凶器は、刃渡り八センチほどのありふれたナイフで、力をこめて刺しこまれたために長さ十二センチほどの刺創管を形成し、その先端が肺動脈を傷つけていた。

もちろん犯人の唯一^{いっさい}の遺留品たる凶器の線からも、捜査は進められていたが、学童でももっていそうな平凡なナイフなので、初めから難航した。柄^えに付着していたにちがいない犯人の指紋も、その上から被害者が血まみれの手で握りしめたために、検出不能になっていた。

被害者の身許は、所持していたパスポートから直ちに割れた。それによると、アメリカ国籍のジョニー・ヘイワード、二十四歳、現住所はニューヨーク、東一二三ストリート一六七番地、日本へは「観光ビザ」で、四日前の九月十三日に入国している。来日は今回が初めてである。

① ~によると/据……说, 据……认为。(惯用型, 接在体言后, 表示传闻的出处。)

② これだけ/这么些, 这么(多、严重……)。(副词, 表示程度之高, 数量之多。)

③ ~にちがいない/肯定……(惯用型, 接在体言、形容词词干以及形容词、动词连体形后, 表示比较肯定的推测。)

さらに所持品の中に新宿区のあるホテルのロケーションカード^①を見つけた。刑事がおもむくと、それは一年ほど前にオープンしたビジネスホテルで、機能本位の設備がうけて、現代に即応するホテルとして繁盛^{はんせい}している。

その名も、ずばり、『東京ビジネスマンホテル』である。玄関からロビーへ入ると、フロントカウンターにクラーク^②が一人、客が二、三人いるだけで、ガランとしている。これでホテルは満室^{まんしつ}なのだそうであった。案内のボーイも置かず、客は前払いしてキーをもらい、部屋に通る仕組みになっている。

ロビーには、自動販売機がずらりと並んでいる。煙草、コーラ、週刊誌等の他に、おにぎり、サンドイッチ、ラーメンなどのスナック類の販売機がある。フロントでキーをもらい、自動販売機からサンドイッチとコーラでも買って、独り部屋で食事をしている図は、機能的かもしれないが、いかにも寒々^{さむさむ}としている。

従業員の数もおもいきって削減^{さくげん}し、ホテルの隅々まで省力^{しりょうりき}が行きわたっているようである。客室以外に事務所もあるらしく、『郡陽平後援会本部』とか、『松原法律事務所』などのボードが玄関脇の壁に下っている。

捜査員は、フロントで用件を伝えた。すでに宿泊客が殺害された連絡はきているので、クラークは奥のオフィスから責任者らしい人物を呼んで来た。

「どうもこの度は、私どものお客様が大変なことになります、私どもただびくりしております」

〈フロント課長〉と肩書きの付いた名刺を差し出したその男は、^③いかにも接客業で鍛え上げたようなにこやかな態度で捜査員を迎えた。柔^ならかいが、芯^こに警戒の鎧^{よろい}を着けている。接客業者特有^④の、垣根越^{かきこ}しの応対^⑤なのである。

「そのことで、二、三おうかがいしたいことがありますして、捜査員は前置き抜きで本題に入

① ロケーションカード(location card)/住宿卡。 ② クラーク(clerk)服务员。

③ いかにも的確^{とてつ}は……, 的确……(副詞, 表示“的确”、“完全”的意思, 常后接助动词“ようだ”、“そうだ”以及接尾词“らしい”等, 强调这些词的意思。) ④ 柔らかないが、芯に警戒の鎧を着けている/虽然他表面上温文尔雅, 但骨子里却披着一副戒备的铁甲。 ⑤ 垣根越しの応対/人心隔肚皮的应酬。

った。

この職業畑の人間は、いったん口を閉ざすと、テコでも開けられなくなる。警戒心を解くためにも、単刀直入に聞いたほうが、効果の高い場合が多い。

「どんなことでございましょう。手前どもにお役に立つことでしたら、なんなりと」^①

フロント課長は口では積極的な協力の姿勢をしめしながら、保身のおよび腰で、いつでも逃げられるように構えている。

「まず、殺されたジョニー・ヘイワードさんの部屋を見せていただきます。部屋はそのままになっっているでしょうね」

犯行現場そのものではないので、強制的な保存はできないが、身許判明と同時にホテルに連絡し、もよりの派出所の巡査を走らせて、みだりに変更できないように見張らせてある。

「それはもう。交番から巡査も来ておりますし」

そのとき、派出所から先行していた巡査が一行を迎えに出て来た。案内された部屋は、ベッド一基と、ユニット式のバス・トイレットで構成された殺風景なシングルルームである。ベッドサイドにナイトテーブルがあり、そのうゑに電話機が乗っている。それだけが部屋の備品であった。

「客の荷物は？」

「こちらにございます」

フロント課長は、部屋の隅にあった古ぼけたスーツケースを指した。

「これだけですか？」

「これだけです」

「中を見せてもらいます」

返事も聞かずに捜査員は、ケースを開いた。錠はかかっていなかった。中身は、着替えや軽い読み物などの雑品だけで、手がかりになるようなものはいっさいなかった。

① なんなりと/无论什么, 不管什么。(副词, 该处是“何なりとおつしやってください”的省略。) ② 保身のおよび腰明哲保身的暧昧态度。(惯用句) ③ シングルルーム(single room)单人房间。

「予約は、どこから入ったのですか？」

携帯品検査を終わった捜査員は、質問の鋒先^{ほうせん}を変えた。

「予約はありません。九月十三日の夜、ふらりと現われまして、部屋を求めたのです。態度も悪くなく、ちょうど空部屋があったものですから」

「本人が直接フロントへ来たのですか？ それともあらかじめ運転手^①かなにかが部屋の有無を聞きに来たのですか？」

「本人が直接来ました」

「このホテルは外人客は多いのですか」

「めったにありません。ほとんどが定期的に出張して来るサラリーマンです」

「もちろん英語で話したんでしょう？」

「いえ、片言でしたが、日本語を操^{あやつ}っていました」

「日本語をしゃべったんですか」

これは新発見であった。初めて来日した外国人が日本語を話した^②となると、事前に日本の予備知識が、日本となんらかのつながりがあったのかかもしれない。

「たどたどしい言葉でしたが、意志の疎通^{そつう}はできました」

「それでどのくらいの滞在予定だったのですか？」

「一週間分の前金を置きましたので、いちおう一週間ということに」

「すると、本人は滞在を延長する意志をもっていたかもしれませんね」

「それはなんとも申し上げかねます。手前どもでは、三日間を一区切りとするのですが、一週間分の前金をいただきましたので」

フロント課長は、「前金」を繰り返した。それが、金さえ払ってもらえば、後は関知しないという、いかにもビジネスホテルらしい現金主義を露骨に刻きだしているように見えた。

① 運転手かなにかが司机或者其他什么人。（“か”是并列助词，以“名词か+疑问词か”的形式，表示不肯定的指明或笼统的选择。） ② ~となると/如果是……，提到……（惯用型，接在体言或动词终止形后，表示提起话题。） ③ 前金/定金。 ④ ~さえ~ば/只要……就……（“さえ”是副助词，接在体言、用言连用形、副词、助词等后，“ば”是表示假定的接续助词，接在用言的假定形后。该句型表示最低条件。） ⑤ らしい/的确是……，真正是……（接尾词，表示“有……气质”、“有……风度”的意思。）

「滞在中、訪問者はなかったですか？」

「ございません」

「電話などは？」

「交換台に聞きましたが、外線は一本も入って来なかったそうです」

「こちらからかけた電話は？」

「発信電話は、ごらんのように部屋から直接ダイヤルできるようにしておりますので、どこへかけたのか、ホテル側にはわかりません」

「それでは料金はどうかやって徴収するのですか？」

「会計にメーターがありまして、通話料が示されるようになっていきます」

メーターには百六十円が表示されていたが、その内訳はわからない。

ここでも人間の介入を拒否するメカニズムの極端な発達が、捜査の障害となった。東京ビジネスマンホテルの捜査は、そこで行きつまった。そこは被害者が旅の途次に数夜の宿りを求めた仮の宿でしかなかった。犯人との「接点」は、まったく認められなかった。

結局、犯行動機、場所、犯人の推定等不明のまま、捜査は初期の段階で早くも離航の兆しを見せた。捜査本部では、被害者が外国人なので、アメリカ大使館に連絡を取ると同時に、被害者の住所地に通報して遺族による遺体確認がすむまで、遺体を保存することにした。

捜査会議は紛糾した。最も争われた点は、犯行現場である。ホテル内部に固執する派と外部説を取る者が真っ向から対立した。

「医者を驚嘆させたほどの重傷を負いながら、外部から来られるはずがない。やはり内部でやられたと見るべきだ」と主張したのは、この捜査に投入された警視庁捜査第一課第四号調べ室那須班の横渡刑事である。猿のようなマスクをしているところから「猿渡」の別名がある。彼が「ホテル内現場説」を主張する最右翼であった。

① ~でしかない/只是……, 只不过是……(“しか”是副助词, 接在体言或用言连体形后, 后续否定语, 表示限定。该句型是“である”加了“しか”之后形成的。) ② ほど/副助词, 接在体言或用言连体形后, 表示程度。 ③ ~はずがない/不会……, 不可能……(惯用型, “はず”是形式名词, 接在活用语连体形后。该句型表示从主观上进行推测某事不会发生。) ④ ~べきだ/应该……(惯用型, “べき”是文语推量助动词“べし”的连体形, 接在动词终止形后, 表示责任、义务。)

「同じ部位に受傷して、相当の行動能力を残していた前例もあるそうです」

と、これに異論を唱えたのが、所轄署から捜査本部に参加している棟居（むらゐ）という三十前後の精悍な刑事だった。彼が外部説の急先鋒である。

「そんな前例は、医学的な前例にすぎない。文献や学会に報告されたもので、現実性に乏しいよ」

「しかしホテル内部をあれだけ検索しても見つけれなかったじゃありませんか」

「ホテル内部というのは、必ずしも館内に限られない。ロイヤルホテルには一万五千坪の庭園がある。あのどこかで襲われれば、多少の血痕が落ちたとしても、地面に吸収されてしまうだろう」

「犯行時間帯には、まだ庭園にかなりの人が出ていました。ガーデンハウスではパーベキューをやっているし、宴会に来た客が散歩もしていた。それらの目を潜（ひそ）つての犯行は……」

「必ずしも難しくないとおもうよ。庭には森もあれば、竹林もある。人が出ていてもあの広大な庭園の隅から隅まで、人の目が光っていたわけではあるまい」

「ガイシャのコートに付いていた泥は、ホテルの庭のものではないということでした」

⑨「だからといってホテル外部でやられたことにはならない。襲われる前に泥なんかいつでも付けられるよ」

「しかし……」

両派譲ることなく討論していると、那須警部が言葉をさしはさんできた。

「ガイシャは、なぜ屋上のレストランなどへ上ろうとしたんだろうな」

両派が虚を衝かれたような表情をして、那須に視線を集めた。これまでそのことについては論じられていなかったのである。

「なんだってあの男は、エレベーターへ乗って、四十何階かの屋上レストランへ上ろうとした

① ～にすぎない/只不过(是)……(慣用型, 接在体言以及用言连体形后, 表示程度之低。) ② 必ずしも/不一定……, 未必……(副词, 与否定形式相呼应, 表示否定。) ③ ば/接续助词, 以“～も～ば、～も”的形式, 表示并列。相当于汉语的“既……也……”, “又……又……”。 ④ ～ということだ/据说……(惯用型, 接在用言终止形后, 表示传闻。) ⑤ だからといって/虽说……但是……(惯用型, 接在用言终止形后, 表示后面的内容不能顺应前面的条件, 后句多为否定意义的句子。此处的“だからといって”相当于接续词。)

んだらう？ どうせたすからないとわかっていたら、どこで死んだ^①っていいだらうに。そんな上の方の食堂へ行った^②ところで、もうメシを食えない体になっている。」

那須の言葉はかなり乱暴な言い方であつたが、これまで一同が見過^みこしていた点を突いていた。死に臨んだ人間が、朦朧たる意識のまま、ただふらふらとスカイダイニング行きのエレベーターにまぎれこんだぐらいにしか考えていなかったのである。

「ガイシヤは、ナイフを胸に突き立てられたままだった。目撃者の話によると、そこを底^なうようにしていたそう。ふつう、人間が刺されて、意識が残っていれば、まず凶器を身体から引き抜こうとするだらう。それなのにガイシヤはそれをせず、凶器を刺したままにしておいた。凶器を引き抜けば、そこから出血して死ぬ^しぬことを知っていたんだ。死ぬ前にどこかへ行きたかったから、故意にそのままにしておいたのかもしれない。そして彼は、ロイヤルホテルの屋上レストランへ上つて来た。本来なら病院を探すべきなのに」

「必ずしも屋上レストランへ行ったのではないとおもいます」

那須班の最若手、下田刑事が異議をはさんだ。みな視線が彼の方へ転じた。

「ガイシヤはエレベーターの中で死んでいました。乗り込んでから屋上へ到着する間に、息絶えたものとおもいます。すると、途中階で下りるつもりだったのが、そうできなくなったとは、考えられませんか」

たまたま屋上へケージが着いたときに、死体となつて発見されたので、いかにも屋上を目指していたかのように見られたが、彼は途中階へ行こうとしていたのではないかというのである。いい意見だというように、一座に騒めきが起きた。那須がうなずいて、みな発言をうながすように、見まわした。

「しかし、もしそうならエレベーターガールに下りる階数を告げたはずだよ」

最古参の山路部長刑事が反駁した。鼻の下にいつも汗をかいている童顔の刑事である。

① だって即使, 尽管。(接续助词, 用法和“ても”相同。) ② に終助词, 接推量形式的句尾, 表示遗憾、痛心、感动的心情。③ -たところで即使……, 纵然……(惯用型, 接在动词连用形后, 表示逆接条件, 相当于“~ても”。)